

最終回

# Pinky's Thoughts



## 変化のとき

During my first stint as an ALT in Kagoshima, I bonded very well with my supervisor. Despite our lack of language abilities, we found our own way of communicating and he was a big part of the reason I fell in love with Japan and its' people. Imagine my surprise when, after working so hard to understand one another and finally making inroads, he got transferred!! I wondered, "What is this system? Why would they snatch him away now after all we've accomplished?" His transfer to a small island close to Okinawa got me thinking about this system and I really couldn't understand the reasoning behind it.

To remedy this, I entered into many conversations with teachers, co-workers and friends to try and get to the bottom of it. You see, I was coming from a Canadian perspective where the only time someone changes jobs within the same organization is if they have asked for a transfer or if they have been promoted. A town office staff could spend 40 years working in the same position or a teacher could educate their former student's children and potentially even their grandchildren!

The conclusion I came to is this: one system is not better than the other, they are simply different. I appreciate that in Japan, no one can grow stagnant in their job. As for teachers, I'll be sad if anyone gets transferred, but as I love to travel, it just means one more place to explore!

Jolene Helgason

鹿児島で英語指導助手として働いていた時、直属の上司ととてもいい人間関係を築いていました。お互いに言葉はできなかったものの、私たちなりのコミュニケーション方法を見つけ出しました。日本と日本の人々を大好きになれたのは、その上司に負うところが大きかったのです。ところが試行錯誤の末やっとうまく行きだした、と思った矢先に上司が転勤することに！この驚き、想像でできますか。「転勤ってなに？ やっとうまくいくようになったのに、なぜ上司が連れ去られるの？」と不思議に思ったものです。この上司が沖縄近くの小島へ異動になったことで、私はこの制度について考えざるをえなくなったのですが、その理屈がまったくわかりませんでした。

事情を知るために、先生や同僚、友人とたくさん話をしました。カナダ出身の私にとって、同じ組織内で仕事が変わるなんて、本人の希望か昇進の時だけです。町役場の職員が40年間同じ部署で働いたり、先生が昔の教え子の子供を教えるとか、時にはそのまた孫を教えることだってありえます。

結局私が出した結論はこうです。どちらか一方の制度がより優れている、ということはない。ただ「制度が違う」ということ。日本では誰も仕事で新鮮さを失うことがない。学校の場合は、誰か先生が転勤になったら悲しい。でも旅行大好き人間の私にとっては、また新たに訪ねるところが増えるということでもあります。

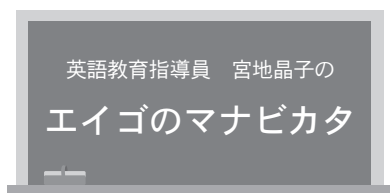
ジョリー・ヘルガソン  
(訳：宮地晶子)

### 【ちょっと豆知識】 宮地晶子

上のエッセイを読んでいて「A rolling stone gathers no moss (転がる石に苔はつかない)」ということわざを思い出しました。主にイギリスでは「ふらふらしている人間にはきちんとしたことは出来ない」。アメリカでは「常に活動している人はさび付くことがない」という意味で使われるとか。石といえば有名なのが「さざれ石」。石が岩になるわけがない、と英語への翻訳を拒否された歴史があるそうです。実は石灰質の作用で大きくなるとか。

「子どもが授業についていけない」「英語が好きだからもっと伸ばしてやりたい」。どちらもよく聞かれる質問なのですが、私のオススメはいつもラジオ。ワンパターンですが、いいものはいっぱい！とありますが、これが多分なかなかに浸透しません。そ

最近、英検に合格した息子に父親が「何がよかった？」と尋ねたら「ラジオ英会話」(番組名)と答えが返ってきました。積み重ねの力を実感している様子です。親としては何がいいか、というところはもう「薬」のひと言に尽きます。付きっきりで教えなくてもいい。380円のテキストと一日わずか15分間。これで知らぬ間に子どもが伸びていく。



第79回  
性格は直らない!?

の原因が「子どもの意志の弱さ」。「なーんだ今さら！」と思わないでください。でも、これって叱って直るものではないそうです。「性格は小さいうちに直さないと」と私も思っていたのですが、どうもそれは違うらしい。性格を直すには、強いモチベーション(動機)が必要で、モチベーションを持つには将来を見通す力が必要。だから実は「大人になってからの方が性格は直しやすい」のだから。子どもは、見通しが持てないので、「このままでは高校行けないよ」という脅しも効かない。では毎日ラジオを聞くのは不可能か、というところはない。ここが親の出番です。意志は弱くても、吸収力は抜群。習慣化さえしてしまえば、本人は伸びが実感できて続きます。まずはラジオをさりげなく紹介する。タイムをセットする。慣れるまで近くにいてやる。「おもしろい番組ね」と自分も少し楽しむ(実際、おもしろい)。

助走の間だけちょっと一緒にいてあげませんか。